

負ふ所多し

練習艦隊に世界が段々進歩するに伴り、人との関係が日に増し親密に赴くのが在々と服に見入る、十九世紀の舞臺では國際公法學者と、少數の先覺者あたりが、天賦人權說を祖述して土地の貧瘠、寒暑の激烈、人口夥多等の原因で、自國内に生活の安全を得ない場合は、生活の容易なる國土を求めて、其處に移住するが自由でないまでに進んで来た。日本紙は、昨年の帝國練習艦隊歡迎號に述べたやうに、領土の野心又は利益壟斷主義を抱いて他國へ押込み單に自己を利し他を害する云ふなりば、是れ固より戰ひを挑むもので宜しからざること論を俟ずではあるが、當方から労力を提供し、資本を放下して、未開の土地を拓くと同時に自己を利し他を害する事がないでなく、當然爲して宜いことが事実の頭腦に染込んだ。

所が茲にアンゴラクソン民族なる者が在つて、自分の勢力地に繩張を施し、「日本人入るべからず」と云ふ名義で自分たちの日本人がアンゴラクソン民族でもなく、當然爲して宜いことが事実の頭脳に染んだ。

北米や英領植民地に於ける排日亦其の得たる同一の好印象に由り

伯刺西爾時報

NOTÍCIAS DO BRAZIL
Publicado semanalmente
Rua Fagundes N. 16
Caixa Postal H
Tele. Central, 8698
S. Paulo, Brazil
Proprietário e editor
Seisaku Kuroishi

Assinaturas
por Anno 15\$000
Semestre 8\$000
Mez 1\$500
Semana \$500

聖州副統領逝く

亞米利加軍備

オリベエラ・リマ

(下)

正價一部十二ミル

(外に送料一ミル)

会話と作文を同時に修得すべく仕組んで

伯刺西爾語は言文一致であるを利用して

之に文法活用を附加へたのは本書である

正價一部十二ミル

(外に送料一ミル)

書習獨良最の文作と話會

正價一部十二ミル

(外に送料一ミル)

◇外電一束◇

◇經濟欄◇

●世界綿市場と伯國輸出

一八二五年から一八七年迄の間に、クリチバ市及びその附近に集まつた外國移民の數は、總計一千四百五十人で、之を國籍別にすると

何人も座右缺くべからざる

伯國側出口品

種器械、寫真、紙類、紙及葉巻煙草
 ランバウロ州。珈琲。家具、綿花、稻子、陶器
 雜穀、木材、織物、毛織物、化學製品等
 植物織維、鑄物、化學製品
 綿花市場に於ては戦争前に比して約三分の一即ち二十億萬英斤の減少で

ある、伯國の輸出綿も八千二百萬英
 斤から僅々三百五十萬英斤に激減し

プロシア 九一七 奧太利 一一七
 瑞西 五〇 ノロレス 三九
 西班牙 五 一
 葡萄牙 二七 佛蘭西 五三
 白耳義 五 伊太利 一二二
 佛蘭西 五 二二
 希臘 一九
 丁林 二二
 匈牙利 一二二
 パーテン 一八

长春外報に依れば日露代表の意見一致致した(倫敦電報)
 東京外報に依れば日本は露國勞農政府を承認するに至るべく日露新條約が締結されるだらうと

土希戰爭雜俎

土軍占領後のスミルナは大火災で焼死者は一千に達し米國領事館も焼失した(アデン及び紐育兩電報)

英國海軍は土軍をして亞細亞から歐洲へ入るを許すべからざる旨の命令を受けた(倫敦電報)

◆勞農收稅額

モスクワ來報としてリガ電報は曰く生産物を以てする收稅額は九月の十日迄に小麦百萬噸に達した又政府は最近處刑された多くの學者を赦免し

◆南米商況改善

米國務省の報告に依れば南米に於ける商況は引き續き改善されつゝある、伯國に於ては紙幣價值の下落による、伯國に於ては紙幣價值の下落も拘らず根底堅き繁榮の基礎の築かれてある事が知られる、亞國に於ける商況は引き續き改善されつゝある、即ち小賣市場共去る八月中は極めて平靜であつたが本年八月迄に亞國から輸出した小麦は三、〇八千噸玉蜀黍一、二五〇千噸、亞麻種子六七千噸又昨年羊毛の輸出額は五四七千噸であつたが本年八月迄の輸出量も稍同量である、家畜输出三、八七八千噸で昨年に比して非常な増加である(紐育電報)

◆クレマソノ渡米

前佛國首相クレマンソ氏は十一月十一日汽船巴里號で渡米發表された(巴里電報)

◆米露通商關係

米露の通商交復舊の爲め露國よりの提議を米國は拒絶した旨公表された(華府電報)

●バラナ州

一八四七年佛國の醫師で又博物學者であつた、ジョア・マウリシオ・ファブル博士が、自費で歐洲から同僚した八十七人の國人を率ゐて、イ

地を再建した、そして同年八月卅一日に、甥のグスタボ・ルンベルスベ

ルジルに後事を託して病死した。

一八六年に同植民地には、熟蕃となつたインチャヤ族、伯國人、佛蘭西、葡萄牙、獨逸等の植民約五百人を有するに至つた。

一八五二年バラナグアの海岸、ス

ラゴイニ、瑞西人の植民地がカル

ペラゴイ植民地と有するに至つた。

一八五七年にサンタカタリナのド

アントニオ・サントスは、バラナ

州の内方十四キロ米突の所に伊太

グアの内方四十人を以てアレキサンドロ・スベラゴイ植民地として創設された

又同年サボノ、ソリボチは、バラナ

州の内方四十人を以てアレキサン

ドロ・スベラゴイ植民地を出た、獨

立トニナ男爵の創設になつた

一八五七年にサンタカタリナのド

アントニオ・サントスは、バラナ

州の内方四十人を以てアレキサン

去八月廿六日より全南米基督教新教徒大會が、當サンパウロ市に開催せられました。南米各地からの代表者がリベルダーデ街の高壯な新會堂内に參集して、互に南米全土に亘る基督教運動に就て議し合ふたのであります。さしもに廣い會場内に溢る、計りの盛況を見ては、南米に於ける精神的覺醒の、驚くべきものあるを認めざるを得ませんでした。嘗て本社の記者であつた鹿野氏が、東京朝日に投書して『伯國にカトリックの寺院と富麗なアマニヤン』がある間は發展が困難である』と、看破して居りますが、何等の自覺もなくして従らに古式に據り、舊套を蔽ふて、甘睡院を覚えざる群衆の中に於て今此新進氣鋭な新教徒運動を見るは眞に之れ伯國の文明將に明けんとして、東天既に紅を呈する感が致します。今伯國に於ける新教日曜學校の發達を見るに一九一年には校數僅に四一三、教師一四九七、生徒一六〇三三であつたのが、一九一八年には校數一〇〇二、教師二七七三、生徒三三四五七となり、更に一九二〇年には校數一三一三、教師五二六八、生徒五二六八九の多數に增加して居ります。本年の統計は未だ出て居りませんがそが驚くべま發達を示して居る事は申迄もありません。何れの國に於ても同様であります。一國文化發展の急先鋒に立つものは常に基督教徒でありまして、今亦其生きた事實を、此伯國に於て見出すものであります。

尙ほ同種と内國豚との雜種は、氣候に耐え、早熟で、重量の多い幼豚が得られる、同じ大きさの雜種豚と内國種豚とで、一乃至二アロバ雜種豚の方が重いのが、普通である。之はドユロツク種豚は他の種と比べて背が高く廣いからで、その爲に牝豚が分娩期になつても、地上に腹を曳き達する事がないので、胎兒が健全に发育する事がある。脚が強く丈夫な骨格を有するので、十四アロバ位の豚は八十キロ位の人を乗せてビン／＼してゐる。にしてよく食ふので、他種の豚が日陰に晝寝して休む時でもドユロツクは、炎天に一日餌を漁つて歩いてゐる。

これで主な内國種と外國種とに就て説いた、その選擇は飼養者の好む嗜好である。然し英米で云ふやうに、種よりは飼養者の心懸りつた、と云ふ事は氣候風土の大に異なる伯國には適用されない、伯國では伯國の氣候に適した最良の種類を探ぶと云ふ事に對しても亦、とまたベンジャミンが口を挿んだ……政府の理不盡はその極に達し、最早許すべからざるまでになつた。各政治家が皆自家の利益にのみ汲々として、眞の國家の保護たる兵士を冷遇し等閑に附するは、誠に解し得ぬ事ではある。と陳ぶる老將軍は、リオ・デ・ジャヤイロの街の石を踏んで、ではなく、大小、銃の彈雨の中に、戦線に立つて三軍を叱咤する概があつた。單に政治家としての子爵の仕事、それは何の價値もない、いくら軍人の役目とは云へ、三日三晩泥濘の中膝まで没して、バラグアイの野に戦つたのだ。その戦終つて別段の論功行賞もなかつた事は、この反軍に將たるに充分な理由があつたのだ。

奏請する所は瓦解である、之から皇帝にて樹てねばならない。各舊大臣は退き下つてよろしからう。」と結び更に子爵を指して、「貴下とそれから法相は收監されねばならない、國羅巴へ遂ひ拂はれる爲ぢや。」それから廣間の中央に進み、沈黙の衆を見渡して、『子爵は強情張だ、然し俺は子爵以上數等の強情張なんだ』

珈琲園コ
イラベエ及びチングブライ町に及びイバウツスク爾停車場か
イン耕地は、土地は高燥で好く、熱病も眼病もなく、而樹で、住家は瓦葺で、立派な新手入の爲に善良な家族の就え得られる、新珈琲樹一千本の珈琲樹一千本と、四分の一とを與へ一千本の手入貨二百袋袋取賃一ミル四百レース、月現金を以てし、シャバンテ買物の爲には、耕地から無料への手紙はTimburyへ又聖耕地視察希望者には無料乗車希望者は耕地に於いては支配場がある、牛馬山羊豚等を飼育希望者には急當當館まで御通知あり大正十一年九月在サンパウロ
原籍山口縣都濃郡須々万村江村小次郎
電話セントラル參貳參四
Rue des Lapavés No. 234
Salas, 32 の Alves Lima 氏氏
tel Grillo で案内も運搬も取扱
旭旅館
コンセレイロ
尋人
伯刺西爾時報取次所
サントス港
Largo 7 de Setembro, 15
Tel. Central, 2008, Santos

口ノ募集
近いソロカバナ線のシャバンテス
ら二レグアの距離にあるコンセエ
至つて健康地、地味は豊沃、水は
も大部分は生産力に富んだ新珈琲
耕地なり。今期收穫が終つたら
働申込に應じる。豆や玉蜀黍を植
え、豆を耕作出来るフォルマード
以上の土地に耕作の出来る三千本
ミルレース、百十二リットル入一
日給四ミルレースを拂ひ支拂は毎
ス、イラベエ又はチンブリイ等へ
運搬する。耕地内にはフバ製造工
養し得る牧場もある。家長にして
券を給與する。

人 Dival de Moraes Aguiar 国氏
市に於いては Rua Direita, No. 7
へ照會されたし Chavantes の Ho-
坂ふ。

やまと撫子 (四)
ラフエル・モンテエロ

哲學的の一首
病室の鏡つめたくわれを見る運命
めきしひやゝかさもて
二つの愛を比べて
ものなべて亂れたるこそ面白や瓶
の薔薇もわがたをやめも
藝術家の短い一瞬の生命を謳ては
流れ星流れよしや消ゆるとも
瞬時は光れわれの生命よ
譯譯が原作に於ける短歌の、全部
の妙味を表現し得ないとしても、吾
人の間には全く初めての、外國風の
此の興趣深い叙情詩の、文藝上の價
値は決して減じる事はない。

堀口大學は卓越した主觀的詩人で
ある、同君の趣味そのものが個性で
ある。金の文字でも書き得る君の詩
は、本來の時には並外れの感動を表
す。

日本藝術の新派、復古、國民派は
『忠實な個性發揮』を標語としてゐ
る。岡倉覺三はその名著『東洋思想』
中にもう書いてある、同派の主義に
従へば、才能の開發をして考へられ
た自由は、藝術家の最大の特權であ
る。自然からでも、古人の巨匠のも
のからでも、殊に自分の作からでも
模写する云ふことは、個性表現に
対しては、既に致命のものだ。

詩歌は思想の中核である。

然らば短歌には過はないだらう
か？無論あるのだ。

詩人とは、あの『光の分子』を表現し
得るものである。

然らば短歌には過はないだらう
か？無論あるのだ。

詩歌は思想の中核である。

然伴ふ避け能はざる點であるかも知
れない。けれども象徴派の主唱者、
ベルエヌの或る作を思はせるほど
の、象徴氣分の堀口大學の詩に、技
巧と美の多くの創意のほどばかりが
ある。ルナンは嘗て祀られてゐる美
の神々に依つて、も推論されねばな
らないと云つた。

吾人の知る限では、彼は不思議な
大和民族の真正な纏まつた詩想を、

無作法な外國人の目の前に發表する
を敢てした第一人者であつた。

犯すべからざる權威を以て、この
短歌を品評したもののはボトル・フォ
ルであつた、その序文中の終に一節

を轉載して、この短評の筆を描かう

『堀口よ、私は君の歌集を賞讃する
君のこの集は一首に巧に讀者

を導いて、それ／＼満足を私等に與
へてくれる。君の歌は讀者にそつて
は、感動深い、鋭い、抒情的な小説
としめた小説である。』(終)

微風に搖る稻穂の

稻は結實れり

お、秋の來れるよ。

椰子の葉がくれに

ベリキートは鳴を秘めて

珊瑚の房を喰める

お、秋の來れるよ。

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら
馳せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃ける
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

駆せぬ一人今宵の月をば眺めてわれ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

驚きてふと我に歸れば今しわはは恍
として瞑想の淵にさまようてわが思
は徒に生き戀人の身の上に向しつゝ
を憾むてはなきや、焼けるランプ
の火よりも胸の火のボツボツ燃える
とも知らず何處に何して遊ぶやら

最近の暑さは近年に全くないことで、月月中旬迄は穎くらしい。それで電気局でも千七百臺の車を運転する事が出来ず現在では千四百五十臺しか動かして居ない状態で、此の上にも病氣缺勤が續出すれば公休中の乗務員を招集する外ない。今から憂慮して居る。

▲ 温度 を調べてみると、九州から東北にかけて平均九十一度暑いといはれてある。大阪名古屋金澤新潟邊では毎日九十二三度以上に達し、例年最も涼しい房総の沿岸でさえ八十七度を下つたことが無いといふ素晴らしさである。而も中央氣象臺の発表によれば、自下は颶風の心配もなく時々驟雨模様がある位で、當分は晴天続きだから未だ暑くなるだらうといふ。

▲ 觀測 されてゐる猶ほ右に關して佐木技師は語る。『今年の平均温度を例年と比較すると、総て二度五分高いのみである。これぐらゐの高さではこんな暑さを感じるのはないのだが、今年は氣候が非常に順調で、毎日好晴が續くので、前日の地熱が残つてゐる所へ更に照りつけるからそれで暑いのだ。但し自下が

▲ 絶頂 だから四五日後からは多少降り坂になるだらう。何しろ十數年來のことだ』と因に六月正午に全國重なる地方に於ける温度は次の如くである。鹿児島八・七、熊本八・九、六高知八・八、二和歌山九・〇、廣島八・七、五三青森八・五、七旭川七・六、六

▲ 最も 気毒なのは市電の從業員で、七千八百八十七人云ふ多數の車掌運轉手は二時間交代で勤務して居る。だが酷暑のため現在一割五分強に当る千百八十三人の缺勤者を出して居る。此の中四分強の四百六十八人は公休、公傷特別公休者で、殊に一割一分餘の七百十五人が眞實の缺勤者である。とは驚くべき缺勤者である。病氣は重に立ち詰めの職業として脚氣が多く此の病氣缺勤は九

▲ 東京電報、北米通信（九月一日）

◆ 波多野子爵薨去 前宮内大臣波多野敬直氏は八月二十九日薨去した。特旨を以て正二位に陞叙し桐花大綬章を賜はつた。

◆ 朝鮮洪水溺死千人 八月下旬朝鮮に大洪水起り約千名の溺死を出し財産の損害も莫大である。

◆ 加藤内閣ご普選案 加藤内閣は愈普通選舉法案を次期議會に提出の決心にて其實施期は多分大正十七年度からの豫定らしい。

◆ 松方侯内大臣桂冠 内大臣松方正義侯の辭表は既に時機の問題なりしが愈具體化し平田東助子爵が其後任となるであらう。

◆ 一二百十日は平穩 日本今年の二百十日は極平穏で日本米產額も七千萬石の豫想なれば來年は外國米輸入の必要はあるまい。

◆ 期米は卅一圓台 八月廿三日前場に卅二圓臺に暴騰した期米は同日後場に卅一圓卅一錢

暑い!! 暑い!! 九十五度。 ◇各地こも十數年來の暑さよ近年こ全くないことで月中旬迄は頗るくらし 日本近信

神經に異常を起すのも無理のない事であるが、昨今此の精神病者が遙に増加して来て夫々の所轄署も其届出に接して多忙を極め各病院とも連日満員の状態である。

で兵卒にとつては一種の衛成勤務になつてゐるもので番に當つた者の務はなか／＼重く手落のために處を受けたものも少くなかつたなどので大分ビク付かされたものであつた。それが止となればらよつこ息抜きが出来ると兵隊さんの喜ぶ事甚しい

に本山を訪問すると王仁三郎は靈界物語中だからて谷村執事につて應接し『あき子さんは本月知りてから來られましたさうですが祕かに來られました』居りませぬ、東京で信仰に入ら

と聞きますがそれも確な事は知度目ださうです』と語つたせぬ大本山へ來られたのはこれで

The image shows a vintage-style label for a soy sauce bottle. It features the characters '純良' (Junjou) on the right, '醤油' (Soy Sauce) on the left, and a central crest with three peaks and the text 'マヤジフ' below it.

一度お試し下さい

は
タ
ル
ノ
エ
ス
テ
ラ
ン
ベ
シ
ナ
駅

卷之三

ニガ味のあるキ、の薄
醤油にお困りの御家庭に
一度お試し下さい

○**日本野菜種子並ニ内外種子一**
○**賣藥、金物、化粧品、小間物、書籍**

◎ 殺蟻器 噴霧器 内國製 謹逸製 約五〇、〇〇〇内外 九月中旬着豫定約 一、一〇 上等 壱〇〇、〇〇〇、並

ベルテ・パリス獨逸製 七、五〇〇 内國製 六、〇〇〇
アセニコシンボ農務省發賣の物 二十三キロ入
『硫酸銅』 一、八〇〇 生石灰 一ミル但し十六キロ
コブランコ 三、〇〇〇 硫黄 九〇〇レース
外に送料は實費申受候文は前金に願上候

其他内外百貨取扱へありますから御買上は第二として
程願上候

ルア
コンデ・デ・サルゼー

Y. SEGUI 電話 セハニル一八
七段商店舖主 Caixa, 1771=S. 1

OKAI
"S
973
o, 41
~
各艦船食糧賣込業
日本郵船會社御用達
大阪商船會社

SHO
and/or
entral, 19
Affons
TOS

IA-K
hip-ch
ephone C
Martim
SAN

YAMA-K
Ship-ch
 Telephone C
 Rua Martim
 SAN



卷之三

大石内藏之助

半井桃水

婦人欄

金迷甲鄉

OSAKA SHOSEN KAISHA

大阪商船會社 漢船着發廣告

北米、ナマ經由 サントス發十月十七日
横濱、神戸行き リオ港發十月二十日

シカゴ丸

日本ヨリ リオ港着 十月十六日
サントス着 十月十八日

尙詳細は左記へ御問合せ被下度候

S. Paulo :— Rua Jose Bonifacio, 17
Santos :— Rua 15 de Novembre, 167
Wilson Sons & Co. Ltd.
Rio de Janeiro :— Av. Rio Branco, 37

削節
干魚發賣元

Rua Dr. Cochrane
Teleph.
SANTOS

橫濱正金

橫濱正金銀行支店